

大腸内視鏡検査体験談

私74歳 男性

糖尿病の掛かり付け医師による検便の結果血便が確認され、大腸検査を実施するよう勧められた。ガンの予兆では。検査結果に対する一抹の不安が。同時に、内視鏡が腸内に挿入される際の苦痛や不安がよぎった。心配していても物事は進まない。意を決して紹介されたオープン間もない三浦クリニックへ。

三浦クリニックは食料品スーパードミーやドラッグストアスギ、定食屋・喫茶、チェーンすしのスシロウ、ペットショップ、美容院等が集積した岩津センター地区の一角と云う絶好のロケーションにおいて2018年5月に開院したところ。

新進気鋭の若先生に紹介状を渡しながらか、胃カメラも大腸検査も未経験であり不安一杯である旨を吐露。「大丈夫ですよ。」2,000件を超す施術体験に裏打ちされた自信あふれる笑顔に不安はやや収まった。

検査時に、内視鏡挿入の苦痛を避けるための睡眠剤使用や、下剤飲用の苦痛を避けるための腸管洗浄用下剤の服用を希望するか。検査中にポリープが見つかった場合には即切除を希望するか等の聞き取りがあった。安全かつ無痛である睡眠剤使用を希望。下剤位は飲めるだろうと飲用を。ポリープが見つかったらほおっておくことはできない。いつか切除しなければならぬものならばこの際にとお願いしつつ、前日や当日の注意事項をお聞きした。

検査は、2日後の午前9時20分より。3畳位の個室に通され、看護師から下剤の取り方の説明をうける。なんとその量は2L。しょっぱいような苦いような微妙な味である。コップに注いだ180mlの下剤を15分ごとに、下剤・下剤・水を繰り返して飲みかえし、便が尿の様に液体になるまで飲み続ける必要があるという。「飲めますか。」「頑張る」

当初、検査は午後と伺っていたので、4~5時間をどの様に過ごすかが課題であった。個室のテレビのワイドショーで、日大アメフト選手の反則事件、監督・コーチの記者会見対応について取り上げていた。番組にくぎづけされながらも、懸命に下剤を飲んだ。正午過ぎに2Lを飲み干した。便意はまだ催さない。腹をさすったりクリニック周辺を散歩したりして腸に刺激を加えた。突然に強烈な便意が襲ってきた。「下着の用意を」と聞いていたが、確かに必用だ。ソファから立ちあがるにも油断はできないし、時間との勝負である。個室のトイレの有り難かったことか。やっとの思いで基準に達した。

いよいよ検査。左側を下にしてベッドに横たわる。初めに血圧が計られた。睡眠剤の点滴針が打たれた。しばらくしたが意識はしっかりしている。傍らの看護師に、「これで麻酔が効くのかねー」と尋ねた。「大丈夫ですよ。まだ麻酔剤はしていませんから。」

そして注入が始まったようである。「しびれますか」という問いに「いいえ」と答えた。長閑な女性の会話で目覚めた。すっきりしていた。時間の経過がわからない。検査はどうなったか。済んだかまだか。とりあえずベッドから起きあがったら近くの看護師が「お疲れさまでした」と声掛けをしてくれた。やっぱり終わったんだ。痛みも、違和感も、何も

感じない。検査前と全く変わらない。事前のあの不安は何だったのか。検査の所要時間は20分位かかったようだ。

後は結果待ちである。ポリープの発見率は40%くらいと聞いていた。いよいよ検査結果が下される時が来た。閻魔大王の判定である。結果、ポリープは、3所で見つかった。ガヘンである。しかし、検査中に全て除去したので安心をとのこと。念のためにポリープの良性・悪性の検査を実施し、2週間後に説明ありとのこと。

とりあえず、これでいいのだ。やっと一安心。

術後は出血等のリスクもあるので経過措置として、2週間をめぐり、力仕事や、運動、暴飲暴食を避け、消化の良い物、飲酒は控えること。当日の風呂は温めもしくはシャワー程度等の注意があった。術後の体調になんの違和感も無く注意事項を守る必要を感じないが、手術が実施された事実を重く受け止め、油断することなく注意事項の遵守を誓った。

最後に、検査実施に関するアンケートに答えた。スタッフの接遇、施術の感想等の項目は、全て100点。減点項目では、下剤薬の改良を期し、爽やかな気分で愛車を運転し、クリニックをあとにした。6時間30分余に及ぶオーバーホールであった。